

科目ナンバリング		G-LAS15 80014 SJ37							
授業科目名 <英訳>	外国語教育論演習2 Seminar on Foreign Language Education 2			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 中森 誉之				
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	複合領域系		使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水1		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(人間・環境学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
<b>[授業の概要・目的]</b>									
<p>「英語学習のつまずき」 英語学習者が直面する諸課題・困難性(つまずき)について、言語習得理論の知見に基づいて概観します。教育学的可能性を探りつつ、基本的な知識とともに、幅広い視座と深い見識を身に付けることを目的とします。</p>									
<b>[到達目標]</b>									
<p>英語学習者のつまずきの原因を理論的に解明し、その上で学術的な根拠を持つ授業実践にどのように生かしていくのかについて、学校教育臨床研究の立場から多角的に検討していきます。この授業では、英語の言語知識(音声・文字とつづり・語彙・構造・運用)の習得、学習と指導について系統的に考察し、日本人英語学習者の特徴を理解することを目標とします。</p> <p>この授業では、学習対象言語を英語として講じていきますが、適宜受講者が興味関心のある外国語に置き換えて考察してかまいません。</p>									
<b>[授業計画と内容]</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要と導入： 英語教育学のスタンス(第1章)</li> <li>2. 音声の習得(第2章)</li> <li>3. 音声の学習と指導(第2章)</li> <li>4. 文字・つづりの習得(第3章)</li> <li>5. 文字・つづりの学習と指導(第3章)</li> </ol> <p>試験1：音声、文字とつづりの学習指導について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 語彙の習得(第4章)</li> <li>7. 語彙の学習と指導(第4章)</li> <li>8. 構造の習得(第5章)</li> <li>9. 構造の学習と指導(第5章)</li> <li>10. 語用論的側面(コミュニケーション)の習得、学習と指導(第6章)</li> <li>11. 外国語処理能力の獲得と指導(第6章)</li> <li>12. 言語知識の学習と指導：学校教育課程への示唆(第7章)</li> </ol> <p>試験2：コミュニケーション能力育成について</p>									
<b>[履修要件]</b>									
特になし									
<b>[成績評価の方法・観点]</b>									
<p>授業中に実施する数回の論述試験の成績を合計し、100点満点換算し、次の評価基準で判定します。評価は、知識の定着度と論証能力(説得性・論理性・明解性)に基づきます。試験を受けられなかった場合は、必ず代替課題を提出してください。代替課題の提出がない場合は、欠席分の点数は零点として計算して評定を出します。履修状況を確認することがあるため、受講時には出席管理機を通してください。</p>									
外国語教育論演習2(2)へ続く									

## 外国語教育論演習2(2)

### [教科書]

中森誉之 『学びのための英語学習理論 - つまずきの克服と指導への提案』 (ひつじ書房)

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

教科書の熟読。

### [その他 (オフィスアワー等)]

私は日本の英語教育の理論的基盤を構築する仕事をしています。この授業で取り上げる諸課題に関しては学校教育臨床として極めて重要であり、現職教員向けの講座でも広く知見を還元しています。英語教育関係の進路を志望する方、英語教育を経験・勘・思い付きではなく最新・最先端の学術的な視点から客観的に見つめ直したい方、教材・教具・指導法開発を志す方、塾や家庭教師で英語を教えている方、言語習得論を考究したい方、その他純粋に興味関心がある皆さんの受講を歓迎します。この授業は大学コンソーシアム京都提供科目のため、広く学外からの参加も受け入れます。

### [主要授業科目 (学部・学科名)]